

会 議 録

会議名称	第4回大空町総合計画策定審議会	
開催日時	平成27年6月4日（木）	13時30分から 16時00分まで
開催場所	議事堂文化ホール	
出席者の氏名	<p>審議会委員出席者氏名（敬称略）</p> <p>加藤康一 藤原正己 中山 守 菅野慎治 苫米地光留 高山正一 鈴木武昭 三條幸夫 佐野 廸 丹治弘之 小森優子 加藤礼子 菊池浩徳 本間文子 寶澤浩幸 河崎琢哉 澤井直美 水野正義 高橋トヨ子 岩原繁弘 和泉彦夫 河西 悟 嶋崎 武 大泉知功 石原和将</p> <p>山下町長 川口副町長 渡邊教育長 菊地総合支所長 藤田総務課長 林総務課参事 山本住民課長 伊藤産業課長 南部福祉課長 佐々木生涯学習課長 総務課企画グループ 村山主幹 木村主事補</p>	
傍聴者の数	無	
会議資料の名称	<p>第4回大空町総合計画策定審議会議案</p> <p>資料1 第2次大空町総合計画基本構想（素案）</p> <p>資料2 第2次大空町総合計画基本構想（素案）</p>	
審議内容及び結果	<p>【審議内容】</p> <p>報告第1号 各部会の開催状況について</p> <p>議案第1号 総合計画基本構想について</p> <p>議案第2号 総合計画基本計画について</p> <p>【審議結果】</p> <p>報告第1号</p> <p>総務部会 7回開催 産業部会 5回開催</p> <p>福祉部会 6回開催 教育部会 6回開催</p> <p>住民生活部会 5回開催</p> <p>質疑等無</p>	

議案第1号 総合計画基本構想について

各部会からの報告形式により議事進行

【総務部会より報告】

総合計画

はじめに

1. この計画について
 - (1) 計画の趣旨・位置付け
 - (2) 計画の構成・期間
2. 計画の背景
 - (1) 大空町の概要
 - (2) 大空町を取り巻く環境
 - (3) 大空町の課題

基本構想

1. めざす町の姿
 - (1) 将来像
 - (2) めざす指標
 - (3) 分野別のめざす姿
2. 5つの基本目標にそった取組方針
 - (1) にぎわいひろがる産業のまちづくり
 - (2) あたたかさあふれる福祉のまちづくり
 - (3) いきがいはぐくむ学びのまちづくり
 - (4) ゆたかさうるおう生活のまちづくり
 - (5) ふれあいつながる協働のまちづくり
3. 笑顔創造プロジェクト
 - (1) 「笑顔創造プロジェクト」とは
 - (2) 「笑顔創造プロジェクト」の3つのプラン
 - (3) 3つのプランの相乗効果

主な意見

- ・人口減少問題などもう少し盛り込み、合計特殊出生率などを具体的に書いてみてはどうか
- ・将来像の解説文の中の強い絆との表現は地方自治の中では強すぎる表現ではないか

意見に対する回答

⇒町をあげて人口減少を食い止めるべきとの議論は総務部会でもなされ、そうしたものを指標の中に盛り込んでいる経緯がある。また、さらに細かいものについては、今後作成される地方版総合戦略の中に盛り込まれることとなる。

⇒第1次総合計画の将来像では、合併後間もない時期であった事でもあり、「ふれあい」というものが根底にあったが、2次では10年の経過とともに「ふれあい」「融合」そしてこれからの10年は更に強い絆にしていこうという意味合いであり、1次を継承しつつさらに強いものにしていこうという思いの中からそうした経緯がある。

議案第2号 総合計画基本計画について

【各部会より報告】

第1章 にぎわいひろがる産業のまちづくり

第2章 あたたかさあふれる福祉のまちづくり

第3章 いきがいはぐくむまなびのまちづくり

第4章 ゆたかさうるおう生活のまちづくり

第5章 ふれあいつながる協働のまちづくり

主な意見

企業誘致の関係において、既に誘致の終えた企業への支援も必要ではないかと思う。また、高齢者福祉の中にもう少し介護部分や医療の部分の人材不足の点について盛り込むべきではないかと思う。さらに、教育の部分において「生きる力」との表現があるが、「共に生きる」とした方がいいのではないだろうか？

意見に対する回答

⇒ 施策の中に「町内企業の育成」とあるので、誘致の終えた企業への支援についても記載されている。また、人材不足の点は、ご指摘のとおりこれまでも様々な部会で話が出ており、そうしたものを包括的に「笑顔創造プロジェクト」に盛り込むことにした。また、「生きる力」は文科省や北海

道教育委員会でも使っている表現であるため、ご理解をいただきたい。

【全体を通しての質疑】

同じ施策の中で、図る、努めるなどの表現について、ある程度の統一感が必要ではないか？全体的なことでもあるので事務局で調整すべき内容だと思うが

⇒ 事務局側での整理を行い後に全体に諮ることとする

今後のスケジュールについて

事務局側で素案の最終調整をしたうえで、7月から8月にかけてパブリックコメント実施する予定。

16時閉会